

No. J2302

排除のダイナミクス—1980年代におけるインドの政党とマイノリティ

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 政治・国際関係学科博士課程

岡山 誠子

本研究は、独立以後の75年の歴史において多文化共存の理想を目指してきたインドの事例を通じて、イスラーム教徒という宗教的少数派の政治的排除の問題に光を当てた。特に、インドの政党による、選挙候補者の擁立における排除を扱った。インド政治に構造的に埋め込まれた排除の動態を浮き彫りにする本研究は、民主主義国家における複数の共同体の平和的な共存を模索するものであり、多文化主義の理念が様々な問題に直面している今日の世界に資するものである。

貴助成金により、インドでの現地調査を追加で複数回実施し、インタビュー、政府報告書、新聞アーカイブ資料など、追加のデータを収集することができた。特に、これまで関係を培ってきた調査関係者たちからは、重要な政治的事件における直接の経験を共有して頂くことができ、有意義なインタビューとなった。また、当時についての貴重な新聞記事や報告書などを入手することができた。

当初はコロナ禍などの影響を受け様々な障壁があったが、基本的には目的にかなう形で、調査・研究活動に邁進することができた。その成果をふまえ、日本の関連学会での企画や、インド現地の大学のセミナーなどで発表する機会に恵まれた。今後は、将来の論文公刊に向けて、国内・国外の研究会などにも積極的に参加し、議論を整理しながら叙述に厚みを持たせていきたいと考える。インドという国の政治のダイナミクスを解き明かすには、引き続きさらなる調査・研究が必要になるため、これまでの蓄積を生かして精進したい。